

《担当者名》才川悦子

【概要】

高度臨床専門職として必要とされる聴覚障害の評価、リハビリテーションを系統的に学習し、臨床に応用できる理論的基盤をつくる。

【学修目標】

1. 純音聴力検査を高精度の臨床的技術として活用する方法を説明できる。
2. 成人に対して行われる聴覚検査全般について理論的に熟知し、臨床的意義づけを説明できる。
3. 小児に対して行われる聴覚検査の臨床的意義づけと、発達心理的側面について説明できる。
4. 補聴器を用いた聴覚補償の方法を、小児、成人それぞれについて説明できる。
5. 人工内耳のリハビリテーションを、マッピング機器の操作と聴能訓練それぞれについて説明できる。
6. 小児難聴と言語発達を熟知し、理論的に構築された聴能言語訓練の方法論を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義位置づけと進め方について説明し、2回目以降の作業内容を調整する。	才川悦子
2) 3	JIS規格と音響の較正	オーディオメータ、補聴器のJIS規格を精査し、聴覚検査における音響較正の方法を学ぶ。	才川悦子
4	純音聴力検査の理論	純音聴力検査を高精度で行うための理論的基盤を学ぶ。 検査困難例、詐聴、心因性難聴における心理的検査としての純音聴力検査の意義を確認する。	才川悦子
5	インピーダンスオーディオメトリと補充現象の検査	音響インピーダンスの物理的な定義を確認し、音響インピーダンスを用いた検査の臨床的意義づけを学ぶ。 補充現象検出のための自覚的検査の理論を確認する。	才川悦子
6	補聴	補聴器による音響増幅と閾値改善の音響物理的側面を学ぶ。	才川悦子
7	人工内耳	人工内耳による聴覚補償について、工学的側面と、聴覚生理的側面から理解する。	才川悦子
8) 10	論文講読（成人聴覚障害）	補聴に関する指定論文を学習し、成人の補聴器による聴覚補償の臨床的側面について理解を深める。（レポートを提出）	才川悦子
11) 13	論文講読（小児聴覚障害）	小児の聴覚補償と言語発達に関する指定論文を学習し、小児聴覚障害のハビリテーションについて理解を深める。（レポートを提出）	才川悦子
14) 15	まとめ	難聴のハビリテーション・リハビリテーションを科学的に行うための理論的基盤をディスカッションにより確認する。	才川悦子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 100%

提出後に教員とのディスカッションによるフィードバックによって理解を深める。

【教科書】

Geers A1 et al.: doi:Long-term outcomes of cochlear implantation in the preschool years: from elementary grades to high school. Int J Audiol. 2008 Nov;47 Suppl 2:S21-30

オーディオメータ JIS T 1201-1: 日本工業規格会 201
補聴器 JIS C 5512: 日本工業規格会 2015

【参考書】

これらの参考書の内容は大学院講義の前段階で完全に理解して講義に臨むべきである。

日本聴覚医学会：聴覚検査の実際。南山堂 2017

小寺一興：補聴器フィッティングの考え方。診断と治療社。2010

【学修の準備】

参考書として挙げた書籍の内容を理解して講義に臨むこと(120分)

【実務経験】

医師